SEGA SAMMY GROUP

CSR BOOKLET 2019























©SEGA ©Sammy ©TMS
©DARTSLIVE Co., Ltd.
©SEGATOYS

CONTENTS

01 会社概要・グループ概要
02 編集方針・報告対象範囲・パフォーマンスデータ(連結)
03 TOP MESSAGE
セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長グループCEO　里見 治
代表取締役社長グループCOO　里見 治紀
05 特集 セガサミーグループの「ダイバーシティ経営」ダイアログ
多様性を「当たり前」に変え、誰もが笑顔になれる社会の実現目指す
07 セガサミーグループの復興支援活動
11 マネジメント
21 お客さまとともに
28 お取引先とともに
33 社員とともに
40 株主・投資家とともに
42 社会とともに【環境】
46 社会とともに【社会貢献】

会社概要

SEGA Sammy HOLDINGS

社名	セガサミーホールディングス株式会社	代表取締役会長グループCEO	里見 治
本社所在地	〒141-0033 東京都品川区西品川一丁目1番1号 住友不動産大崎ガーデンタワー	代表取締役社長グループCOO	里見 治紀
		事業内容	総合エンタテインメント企業グループの持株会社として、グループの経営管理およびそれに附帯する業務
設立	2004年10月1日		
資本金	299億円	社員数	7,993名(連結)

2019年3月31日現在

グループ概要

セガサミーグループは、幅広い領域で事業展開する総合エンタテインメント企業グループとして、大人から子どもまであらゆる年代のお客さま、国内、海外のお客さまに感動体験を創造し続けています。

2018年度実績

遊技機事業

遊



主な事業内容

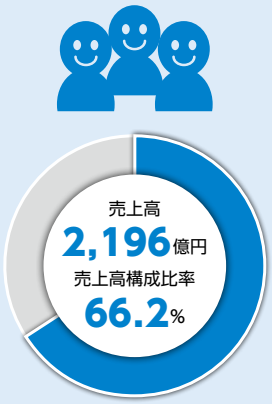
パチスロ遊技機及びぱちんこ遊技機の開発・製造・販売

関連グループ企業

SAMMY、ロデオ、ELEC、SNW、JMS(その他18社)

エンタテインメントコンテンツ事業

E



主な事業内容

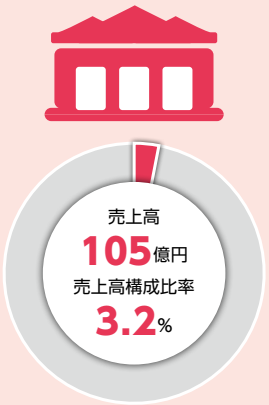
デジタルゲーム、パッケージゲーム、アミューズメント機器における開発・販売、アミューズメント施設の開発・運営やアニメーション映画の企画・制作・販売及び玩具等の開発・製造・販売

関連グループ企業

SHD、SGC、SIC、SLS、SE、DL、アトラス、TOYS、TMS、MARZA、SSC(その他17社、海外44社)

リゾート事業

R



主な事業内容

統合型リゾート(IR)施設や複合リゾート施設の運営

関連グループ企業

国内：PSR(その他2社)
海外：PSS(その他1社)

※ 内部調整売上高が含まれています。

編集方針

セガサミーグループのCSR活動の取り組みを様々なステークホルダーの皆さまに報告し、コミュニケーションを図りながら活動と情報開示を充実させていくことを目的として発行しています。統合レポートに特に投資家の重視するESG情報が掲載されたことをうけ、2018年より統合レポートに掲載されていない項目やCSRの観点でより深く報告すべき項目を掲載するようにしております。また社員のVOICEコーナーを充実させセガサミーグループの事業や取り組み、働き方をより具体的に感じていただけるようにしました。

[参考にしたガイドライン]

GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」
ISO26000（社会的責任に関する手引き）

[発行時期]

2019年9月
（前回発行：2018年9月、次回発行予定：2020年9月）

報告対象範囲

[対象期間]

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）
一部対象期間外の活動も時期を明示して掲載しています。

[対象組織]

セガサミーホールディングス（株）、（株）セガホールディングス（主な事業グループ会社を含む）、サミー（株）

[掲載されている略称の説明]

（各セグメント）

遊＝遊技機事業、**E**＝エンタテインメントコンテンツ事業、**R**＝リゾート事業、**グループ**＝セガサミーホールディングス（株）、エンタテインメントコンテンツ事業、遊技機事業およびリゾート事業

（各セグメントの主要企業）

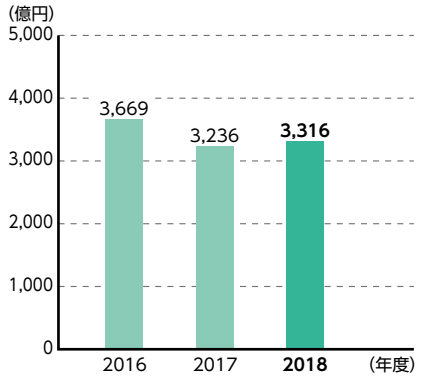
SSHD：セガサミーホールディングス（株）、**SHD**：（株）セガホールディングス、**SAMMY**：サミー（株）、**TOYS**：（株）セガトイズ、**TMS**：（株）トムス・エンタテインメント、**SNW**：（株）サミーネットワークス、**PSR**：フェニックスリゾート（株）、**SE**：（株）セガ エンタテインメント、**SIC**：（株）セガ・インタラクティブ、**SGC**：（株）セガゲームス、**アトラス**：（株）アトラス、**ELEC**：タイヨーエレック（株）、**SLS**：（株）セガ・ロジスティクスサービス、**DL**：（株）ダーツライブ、**MARZA**：マーザ・アニメーションプラネット（株）、**JMS**：ジェイエムエス・ユナイテッド（株）、**OP**：（株）オアシスパーク、**銀座**：（株）銀座、**ロデオ**：（株）ロデオ、**SSC**：セガサミークリエイション（株）、**BTF**：（株）バタフライ、**PSS**：（株）パラダイスセガサミー、**SSGE**：セガサミーゴルフエンタテインメント（株）、**JNEXT**：ジェイ・ネクスト（株）

・ 一部、その他のグループ会社も対象組織に含まれる活動があります。

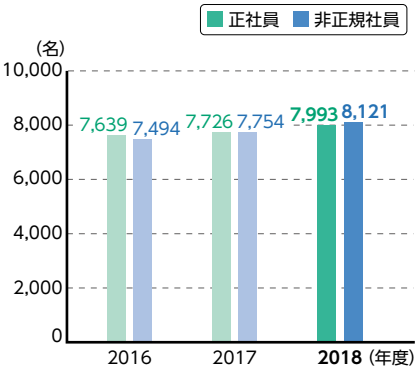
※ 所属・肩書は取材当時のものです。

パフォーマンスデータ（連結）

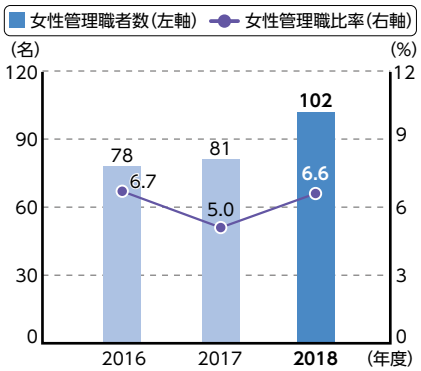
● 売上高（連結）



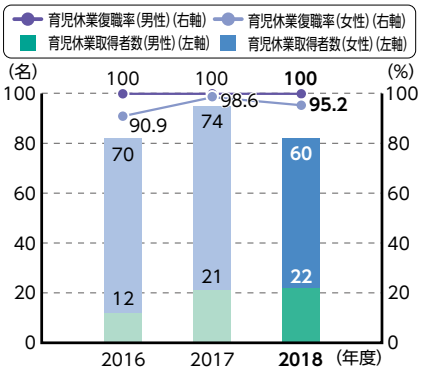
● 社員数



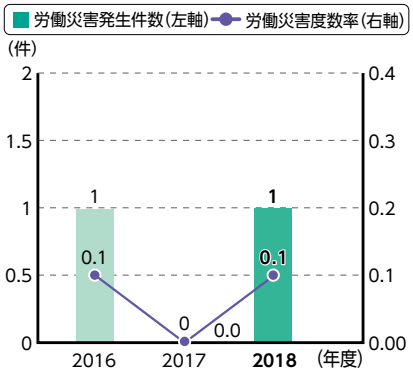
● 女性管理職者数・管理職比率※1



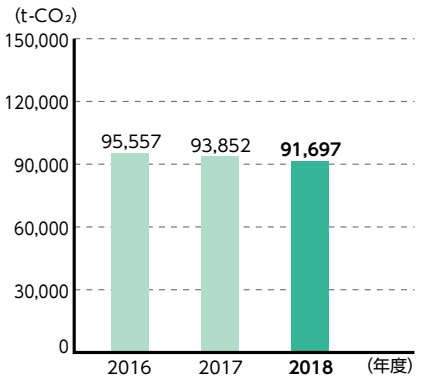
● 育児休業取得者数・復職率※1



● 労働安全衛生※1



● CO_2総排出量※2



※1 社会性データについては、対象範囲・集計方法を一部変更しています。詳しくは P.39を参照ください。
※2 環境データの集計方法と対象範囲については、P.45を参照ください。



総合エンタテインメント企業が果たす社会的責任と社会貢献の形

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長グループCEO
里見 治
(Satomi, Hajime)

感動体験を創造し続ける革新者

成熟した社会にとって、エンタテインメントは必要不可欠なものです。セガサミーグループはグループミッションである「感動体験を創造し続ける ～社会をもっと元気に、カラフルに。～」を実現するため、80を超えるグループ会社が一丸となり事業を展開しています。

テクノロジーの飛躍的な進歩による情報社会の高度な発展は、エンタテインメント業界に遊びの多様化をもたらしました。

業界の垣根を越えて競争が激化する中で、社会の期待を超える価値を提供するためには、遊技機・エンタテインメントコンテンツ・リゾートの各事業が業界における「革新者」となり、変化を恐れず改革を続けていく必要があります。

時代にあった良質なエンタテインメントは、あらゆる人に喜びや勇気といった感動体験を提供するものと信じ、当社グループでは、社員の意識改革にも取り組み、イノベーションの創出を図っています。

人財交流が生む新たな価値

2018年8月、本社機能を集約し、これまで東京近郊に点在していたグループ会社20社、約6,500人の社員を大崎の新オフィスに集めました。各グループ会社が持つ文化を融合し、セガサミーグループとしての文化を醸成したい考えです。また、経営効率の向上やグループ会社間の人財交流の活性化による連携強化、シナジーの創出を狙いとしており、本社機能が集約されたことで、さらなる成長につながることを期待しています。

グループ各社の管理部門は、担当部署ごとに同じデスクで仕事をしているほか、各社の部長・役員は、私を含め今まで以上に活発な情報交換を行っています。また社員食堂は、夜間はバーとしても利用可能なため、社員がリラックスした雰囲気で仕事の話をする機会も生まれています。こうした各社、各層でのさまざまな形の交流は新しいアイデアを生み、また既存ビジネスの成長を促します。こうした相互理解の推進とグループの一体感醸成によって、強固な人財・事業の基盤を固めていきます。

さらに、社員個人が持つ能力の向上や自己実現が業務の創造性や生産性の向上につながると考え、2018年4月から副業を解禁しました。これまでとはちがう視野で自身の世界を広げ、「革新者」として当社グループの価値向上に寄与することを期待しています。

社会とともに持続可能な発展を目指す

日本の新たな産業として期待される統合型リゾート(IR)事業の実現に注力しています。ホテルや商業施設、レストラン、劇場、コンベンション施設、カジノなどからなるIRを実現することは、新たな雇用の創出、インバウンドの増加に伴う国内・地域経済の活性化と財政の改善、国際競争力の強化といった、さまざまな好影響を生みます。日本企業である私たちがIR事業を手がけ、国内の産業力強化につなげるため、参入に向けた最大の努力を続けていきます。

一方で、カジノはギャンブル依存症を増加させるのではないかとの社会的課題が懸念されていますが、こうした課題についてもしっかりと向き合うことが事業者の責務です。2018年から、ギャンブル依存症発症のメカニズム解明に向けた共同研究を京都大学と開始しました。海外カジノ施設におけるプレイデータを分析し、危険な賭けに至る前の兆候を明らかにします。国内IR事業者となった際にも、この結果を活用し、ギャンブル依存症の発症・進行・再発の防止策を講じていきます。

国連によって「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されたことから、昨今、企業には社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献することが求められています。こうした要請を踏まえ、自社の事業が社会にどう捉えられ、またどのように発展することが社会貢献に寄与することになるのかという視点を持たなければなりません。その上で社員一人ひとりが、世界に誇れるエンタテインメント企業となることを目指し、グループ一丸となって進んでいきます。

持続可能な企業として「王道」の歩みで目指す責任と覚悟



セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役社長グループCOO
里見 治紀
(Satomi, Haruki)

「正」の感動体験とともに「負」と向き合う

2019年5月、世界保健機関(WHO)が、オンラインゲームなどへの過度なのめり込みにより、生活や健康に深刻な影響が出た状態を「ゲーム障害」(ゲーム依存症)と呼び、精神疾患に位置付けることを正式決定しました。ぱちんこ・パチスロ、カジノにおいても依存症を問題視する見方があります。しかし、私の持っている「エンタテインメントには、人々に日々の生きる活力を与える力がある」という信念に変わりはありません。

エンタテインメントが社会に与える「負」の側面には、真正面から向き合い、真摯な姿勢で対応を進めていかなければなりません。しかし同時に、「正」としての「感動体験」、すなわち、お客さまの期待以上の価値を提供していくことを続ければ、Missionで掲げる「社会をもっと元気に、カラフルに。」の実現が可能だと考えています。この両輪によって私たちが社会に「必要とされる存在」として求め続けられることができると信じています。

こうした考え方は、「世間から後ろ指を指されるような振る舞いをせず、たとえ遠回りだとしても、長期的な利益を追求し、『王道』を歩いていく」という姿勢の当グループが、持続可能な企業として歩みを進める確固たる道筋となります。

責任と覚悟を持ち、社会に貢献

当グループが進める国内IR事業への取り組みは、グループが長期持続的な発展を実現していくための挑戦であるとともに、IRによる日本の産業創出と経済の活性化を目指すことでもあり、社会的に大きな意義を伴います。

こうしたことから当グループは、「責任と覚悟」を持って取り組みを進めています。例えば、2017年の米国ネバダ州におけるゲーミング機器製造・販売ライセンスの取得では、当グループの清廉性を認めていただくため、財務・税務情報とともに調査対象となる役員個人の資産もすべて開示しました。また、「ギャンブル依存症」対策では、多くの企業が「回復」に対するアプローチを行っているのに対して、世界初となる「予防」をコンセプトに京都大学との産学共同研究を進めています。

思い返せば、当グループの国内IR事業への挑戦は2012年、日本有数の複合施設を運営するフェニックスリゾート(株)の株式取得から始まりました。2017年に韓国初の本格的IR施設「パラダイスシティ」を開業、カジノとホテルをオープンし、2018年には、ショッピングモールやスパ、エンタテインメント施設などを備えた真のIR施設となり、オープン以来、国内外の多くのお客さまから高い評価をいただいています。

当グループは、IR施設を運営する世界の名だたるオペレータと同じ立場に立つことができる力を有する唯一の日本企業だと自負しています。これからも私たちが果たすべき責任に覚悟をもって取り組み、日本におけるIRの事業化に向けた準備を進めていきます。

エンタテインメントの力で社会的要請に応える

当グループの事業が社会に及ぼすインパクトを低減するための努力は、これだけではありません。サプライチェーン上の児童労働・強制労働の根絶に向けた取り組みや、含有化学物質の管理徹底、さらに社会的価値と経済的価値の両立を実現する取り組みといえる遊技機事業のリユースなども進めています。

これまで以上に、エンタテインメント企業としての責任が問われているいま、「必要とされる存在」として求め続けられるために何をするべきか。SDGsをはじめとする社会的要請への対応を、成長機会への施策に組み込んでいきたいと考えています。例えば、超少子高齢化社会といった課題には、エンタテインメントの力で活力を提供し、解決に役立てるといった、本業を通じた貢献を行うことができます。

セガサミーグループは、これからも「王道」を歩み、「感動体験」を持続的に世の中に提供し続けていきます。そのためにも一人ひとりが課題を真摯に認識し、その解決に危機感を持って臨んでいきます。

多様性を「当たり前」に変え、誰もが笑顔になれる社会の実現目指す



セガサミーグループは
ダイバーシティ経営の推進を
重要課題と捉え、「グループCSR憲章」や
「グループ行動規範」においても
真摯に取り組むことを掲げています。
多様な人財がそれぞれの力を最大限に発揮し、
お客さまが望む以上の感動体験を
創造し続けるために必要なことは何か。
里見治紀代表取締役社長グループCOOと、
それぞれ異なるバックグラウンドを持つ
社員5人と意見を交わしました。

さまざまな取り組みや制度の推進

- テレワークなどの導入
- 「セガサミーそらもり保育園」の開園
- LGBT支援制度や設備の導入
- 介護休業制度のさらなる拡充検討

多様な発想・意見を出しやすくする環境づくりを目指して

――ダイバーシティに関して、今後会社に期待することは

田畑　第2子出産に際し、テレワークを利用しました。家族との時間が増え、実にありがたい制度だと実感しました。通勤にあてる時間がなくなるだけでも疲れが軽減し、作業効率も上がりました。けれど「ちゃんと仕事しているのか」と思われないかなどといった不安から、利用しにくいと感じている方もいるようです。そういった雰囲気を払しょくし、誰もが気軽に利用できるようになればと期待しています。



セガサミーホールディングス(株)
プラットフォーム部
田畑 智昭
(Tabata, Tomoaki)
2019年5月に第2子が誕生。パートナーの里帰り出産に伴って1週間ほどテレワークを利用

涌井　私や私より上の世代は「女性は家庭」というところがあって、これまでは社内でも「女性活躍」というチャンスが少なかったように感じます。今後は子育てなど時間の制約がある中で成果を出している人を評価する仕組みが、もっと増えてくれれば嬉しいですね。

江川　今ほどLGBTという考えが広まっていなかった25年ほど前、20代前半のころは、つらい経験もしました。そんな中、赴任先のサンフランシスコで文化や人の多様性を学びました。入社時にカミングアウトしていますが、2年前に帰任した際、うまくやっていけるのか不安はありました。けれど、若い世代を中心に取り巻く空気が変わったことを強く感じました。



セガサミーホールディングス(株)
グループ総務統括部
江川 徳義
(Egawa, Tokugi)
幼少期はLGBTであることに悩むも、後進への道づくりのため積極的に声を上げることを決意し、ダイアログに参加

押川　以前は障がいがある方に対して「この仕事はできない」と、先入観から業務内容を制限する風潮がありました。しかし、実際に作業に取り組んでもらうとそういったことはなく、能力の高い方も多くいます。男性だから女性だから障がいがあるからではなく、本当に能力のある方が評価されるようになったと感じています。

デビッド　新入社員として実感したことをお話しします。就職活動時は海外在住だったのですが、採用面接のやり取りは最初からメールやビデオ通話アプリを使うなど、とてもフレキシブルに対応していただきました。米国・欧州からの中途採用も多く、多様な人財が集まっていると感じます。自分自身も含めて、さまざまな人にとって働きやすい環境だと思います。

里見　世間的にテレワークをしたら生産性が落ちる、育児中の女性や障がいがある方には一定程度の仕事しか任せられない、外国人採用に不安があるなどの考えは残っています。また、LGBTに対する正しい理解が進んでいるとはいいがたい状況です。女性活躍も障がい者雇用も法定数値を上げることが目標でなく、誰もが「働き続けたい」と思える職場にすることが重要です。



セガサミーホールディングス(株)
代表取締役社長グループCOO
里見 治紀

LGBTに関して言えば、社を挙げてサポートすることを対外的に宣言していますし、今後も積極的にLGBTを支援する行動を進めていきます。

また、超少子高齢化が進む中、今後はセガサミーグループにおいても介護を理由とした休職・退職が増加すると考えられます。そして、その問題には、男性の育児休業取得が役立つと考えています。男性社員には数日だけ休んでパートナーを休ませる、というのではなく、積極的に育児に参加し、子どもやパートナーと良好な関係を築いてほしいと思います。良好な家族関係があれば、介護が必要になった際にも理解や協力も得られやすくなり、貴重な人財の流出を防げるのではないでしょうか。

多様な社員が多様な働き方で活躍している環境では新しい発想や意見が出やすいものです。そのような環境づくりが会社の力につながります。

「ダイバーシティに先進的に取り組む企業」を目指して

――セガサミーグループの一員として、
今後ダイバーシティとどう向き合っていきますか

田畑　本日参加して「ダイバーシティ」は身近なものだと感じました。子育てなどで特定の曜日は早く帰らないといけないとか、体調が悪くて休みがちだとか、さまざまな境遇の社員がいます。そういう中で自分たちが、あるいはチームとしてできることはなんだろうと考え、互いを尊重し、理解することは重要だと改めて感じました。

押川　セガサミーグループの一員となってから、トップが定期的に現場を訪れ、社員と直接触れ合う機会が増えたことで、社員が以前にも増していきいきと働いてくれていると感じています。彼らには彼らの普段の生活があり、それをしっかり守っていけるよう、会社としてもケアをしていきたいです。



セガサミー
ビジネスサポート(株)
宮崎事業所長
押川 敏治
(Oshikawa, Toshiharu)
全従業員30名中14名が重度の知的障がい者が働く特例子会社の責任者として、場を束ねる

涌井　「意見の多様性」を受け入れて、いろいろな考えの中で最終的にこうしよう、という意見を正直に出せる環境が整えば一番いいなと思います。「女性」を強調しましたが、今以上に女性も男性も関係なく、自分が望むライフスタイルやキャリアが選択できる会社であってほしいと思います。

江川　カミングアウトをした当時は恐怖心もありましたが、今は社会も会社も、LGBTをはじめとする多様な価値観を受け入れる風土づくりができてきたと感じています。あとは私自身が自分を強く持って活躍していかなければならない、という気持ちが今まで以上に強くなりました。



セガサミーホールディングス(株)
法務部
涌井 円
(Wakui, Madoka)
海外法務課長として業務に従事しつつ、小学1年生の母親としても日々奮闘中



(株)セガゲームス 運営部
カステジャノス アナヤ デビッド ケン
(Castellanos Anaya David Ken)
2019年度新入社員。日本生まれ、米国育ち。日米の生活でダイバーシティについて、さまざまな実体験を持つ

デビッド　同期同士の会議でも自分の発想はみんなと少し違っていると言われることもあるのですが、きょうの話の中でその「ズレ」こそが新しい力を生むということを改めて感じました。考え方の個性を恐れず、空気を壊してでも、少しずつ新しい風を吹き込んでいけたらと思います。

里見　私もサンフランシスコで働いていたことがありますが、アメリカでは、さまざまな人がいるのが当たり前で、それを多様だとは思っていません。セガサミーグループの目指すダイバーシティとは、今現在において「多様だ」といわれているものを、将来的に「当たり前」の状態に変えていくこと、すなわち「今の非常識を将来の当たり前に変えていく」ということです。

人はその場の空気や雰囲気に支配されがちです。私の役目はその空気をあえて読まずに打破し、社員のみなさんを導いていくことです。5年後、10年後を振り返ったとき、劇的に会社が変わったと思ってもらえるよう「ダイバーシティに先進的に取り組む企業」を目指していきます。そのうえで、総合エンタテインメント企業ならではの感動体験を生み出し、誰もが笑顔になれる社会を実現します。



笑顔 元気 を届ける！ セガサミーグループの

復興支援活動

東日本大震災発生直後から、セガサミーグループは様々なかたちで継続的に被災地支援を行ってきました。変わりゆく被災地の支援ニーズにエンタテインメントの力で応えるべく、これからも感動体験を届ける活動を続けていきます。

被災地応援イベント&社員ボランティア

2018年度は宮城県南三陸町、東松島市、女川町、七ヶ浜町にて、イベント出店を実施。イベントでは、「スマートボール」「キラデコシールアート」「ダーツ工作体験」「フラッシュパッド」「UFOキャッチャー」「パンダコパンダ」「クラフトスマートボール作り教室」「プログラミング教室」などセガサミーグループのリソースを活用した遊戯コーナーのほか、社員による「創作綿あめ」を用意し、多くの方々に楽しんでいただきました。また9月には、元・東北楽天ゴールデンイーグルス投手の斎藤隆氏を迎え、女川町内の中学野球部の生徒を対象に「セガサミーグループ野球教室」を、12月にはリオデジャネイロオリンピックメダリスト松田丈志氏とともに「水泳教室」を七ヶ浜町、東松島市にて開催しました。





活動アラカルト （2011年3月～2019年3月まで）⇒2019年度活動継続

支援金

約4億円

社員ボランティア活動＆応援イベント

回数	参加人数	来場者数
計94回	のべ1,157名	のべ29,732名

（セガサミーグループコーナー遊技者数）

【地方創生 in 七ヶ浜町】
サミー(株) PCサウンド研究開発部
中村 仁 (Nakamura, Hitoshi)

七ヶ浜町の町長、政策課、観光協会の方から現状やこれまでの取り組みを聞かせていただき、菖蒲田浜海水浴場をはじめ、周辺を見学しました。菖蒲田浜の防潮堤の上を歩いた時は本当に気持ち良く、眺め、風、空気感は格別でした。

普段はぱちんこのサウンド制作や各種ディレクションなどをメインに業務を行っており、企画的要素が求められる今回、自分に何ができるのか疑問に思いながらも、自分なりの、そして同じグループになったメンバーとアイデアを絞って協力し、限られた時間の中で一つの未来図を形として提案することができたように思います。今回提案した場所が数年後どのようになっているのか、また七ヶ浜町を訪れたいと思います。



【おながわ秋刀魚収獲祭2018】
(株)セガゲームス 営業管理部 **織田 葉子** (Oda, Yoko)

当日はUFOキャッチャーのアテンドを担当しました。小雨が降っていたこともあり、あまりお客さまがいらっしゃらないのかと思いましたが、始まってすぐにお客さまがいらっしゃり、それ以降は常に10メートル程度の行列になりました。アテンド中、お客さまの景品が取れるまでのドキドキ、取れた瞬間の喜びが伝わり、自分が昔、セガサミーのエンタテインメントに触れて感じた楽しさを思い出しました。印象に残っているのは、親子でいらっしゃったお母さまから「子どもがUFOキャッチャーを好きになった」というお言葉で、セガサミーのファンを増やせたことが大変嬉しく感じられました。また、グループ内のほかの会社の方とも交流ができ、セガサミーグループとしての一体感が感じられたとても価値のあるイベントでした。



【セガサミーグループ「野球教室」with斎藤隆】
(株)セガトイズ 国内営業本部
大月 将平 (Otsuki, Syohei)

東日本大震災から7年。津波で甚大な被害を受けた宮城県女川町にうかがいました。駅前などは整備が進み、街並みは綺麗になっているとはいえ、まだ所々で震災の爪痕が残っていました。そんな中、「セガサミーグループ「野球教室」with斎藤隆」にセガサミー野球部OBとして参加し、貴重な経験をさせていただきました。野球教室に参加してくれた中学生の皆さんが元気に野球に取り組む姿勢を見て、逆に私が元気をもらいました。教室の最後に「何も挫折もなく育った人間より、何か挫折を味わって苦しい思いをしてきた人間の方が絶対に強い」と斎藤隆さんが仰っていました。私自身もこの言葉を胸に刻んで生きていきたいと思いました。



【七ヶ浜町生涯学習フェスティバル2019】
(株)セガゲームス エンタテインメントコンテンツ事業本部
第2事業部サウンドセクション
瀬上 純 (Senoue, Jun)

イベント運営に関しては、事前準備の段階から参加者全員が率先して積極的に声を掛け合いつつ進行し、当日も、楽しく居心地の良い空間を生み出そうと、どの場所においてもスタッフと来場者が会話を交わしているような和気あいあいとした雰囲気の中、あっという間に時間が過ぎました。未就学児の小さなお子様から、お孫さんと一緒に来場される年配の方まで、幅広い年齢層のお客さまをもてなそうというスタッフの熱量は、来場されたお客さまにも伝わったと思います。今後もグループメンバーとの活動を通じて、各々のフィールドに持ち帰ることができる経験を積みたいと感じました。



【南三陸町産業フェア2018】
(株)セガエンタテインメント
オペレーション統括本部 中日本営業部
小竹 進 (Kotake, Susumu)



何か社会に貢献したいと考えても、自分1人の力ではなかなか実行に移しにくいのですが、このような活動を会社として実行しているので、非常にやりやすいと実感しました。自分自身がやってきた人を喜ばせるためのノウハウを存分に発揮し、そのことで地域の人たちが笑顔になって喜んでいただく。ボランティアのテーマは被災地のあらゆる方に“感動体験を届ける”ことですが、その感動体験は地域の人に届けるだけでなく、地域の人から自分自身にも共有されるものだと感じました。この気持ちをいつまでも忘れることなく、今後も自分自身やほかの社員も巻き込んでまた参加したいと思いました。今回は、貴重な経験となりました。

【メリークリスマスin東松島2018】
インフィニトーク(株) BPO事業本部BPO運営部
上田 時則 (Ueda, Tokinori)



今回初めて参加させていただきました。自然豊かなこの土地が津波で被害を受けたとは思えない綺麗なところでした。大曲市民センターで担当ごとに来場者の導線や景品を準備し、当日を迎えました。

私はスマートボール担当で、家族で楽しそうに小さなお子様も目を輝かせながら遊んでいる姿を見て「本当に来て良かった！」と思えた瞬間でした。1時間以上かけてきた家族や、毎年楽しみにしているお子様が欲しい景品をゲットするために何回も並んでいるのを見て、自然に笑顔になっている自分が逆に幸せをもらった気分になりました。今回小さなお子様からご年配の方までさまざまなコミュニケーションを経験させていただき、次回も是非貢献したいと思いました。

【セガサミーグループ水泳教室with松田丈志2018】
(株)セガゲームス CS業務部セガ倫理チーム
徳丸 邦彦 (Tokumaru, Kunihiko)



松田丈志選手の水泳教室のお手伝いをさせていただきました。

私も子どものころスイミングクラブに通っていたこともあり、水泳は大好きなスポーツです。松田選手がセガサミー所属になるずっと前、絶対的なパワーが必要な中長距離の自由形やバタフライで世界のトップと互角に競う姿を見て、すごい選手が現れた！と興奮したことを覚えています。参加してくれた子どもたちに、「できる」と自分を信じてチャレンジすることの大切さを熱く語る姿に胸が熱くなりました。また、熱心に話を聞き、質問をしていた子どもたちの姿にも感心しました。彼らにはとてもいい人生の糧になったと思います。自分自身にとっても楽しく、とても勉強になった2日間でした。

【東松島夏まつり2018】
サミー(株) 生産統括本部
生産企画本部生産企画部生産企画GR
堀 宏次 (Hori, Koji)

今回初めて参加させていただきました。イベント当日はスマートボールを担当しましたが、ボールの行方を追う子どもたちの真剣な眼差しや、穴に入る瞬間の喜びを一緒に体験することができました。777がそろう「サミー賞」は10名程度でしたが、出た瞬間は大きな歓声が響き渡りました。

参加して良かったと思った点は、業務上関わりがなかった方々と同じ目標に向かって活動ができたことです。来店してくださった方々に笑顔を届けるため、何かをしたい！という思いのもと、体が動いていました。この経験をグループ内で共有し、参加者の輪を広げていきたいです。



2019年度新入社員研修

グループ新入社員研修の一環として、2013年度より被災地を2泊3日で訪問しています。2019年度は202名の新入社員が被災地（宮城県女川町、東松島市、七ヶ浜町）を訪問。女川町長、東松島市の副市長の講話、旧大川小学校の視察、そして地域住民との交流も行い、最終日は七ヶ浜町への復興施策プレゼンを行いました。





サミー(株)
落合 春菜
(Ochiai, Haruna)

被災地研修でたくさんの方にお話ししていただきましたが、皆さんとてもポジティブで前向きな考えを持っていることに感動しました。女川町長の講話で「震災で多くの被害を受け、失うものも多かったけれど、震災があったからこそ出会えた人達もいる」という言葉が心に響きました。震災という経験を思い出すだけでも辛いことなのに、私たちに伝えてくださった宮城県の方々のためにもこの研修を無駄にしないよう、私自身が今できることをしっかり考えていこうと思いました。

実際に被災地を訪問して思ったことはテレビや新聞、記事などを見て想像していたより酷く、避難場所に指定されているところも予想を上回る地震、津波の被害で言葉が出てきませんでした。その中で、自分だったらどう動いたかなどの質問に考えさせられました。私だったら指定されている避難場所へ移動し安心してしまうと思います。研修を通じて学んだことは、何事にも「予想を上回る想像力を持って臨む」ということです。今回の研修で学んだことを、今後にしっかりつなげていきたいです。



フェニックスリゾート(株)
平坂 将真
(Hirasaka, Syoma)



(株)セガ・インタラクティブ
岡田 紗也加
(Okada, Sayaka)

旧大川小学校を訪れ、ニュースで見た時に感じた「逃げられたのではないか」という思いが、いかに見当違いか身をもって実感させられました。実際に逃げるルートなどなく、経験したことがないほどの震災の中、教師の方々は逃げるルートを冷静に判断することさえ難しいと感じました。また人のために必死で努力する方々を見て、自分が生きる意味、働く意味を再度考え直すきっかけにもなりました。親切に話してくれた語り部さんの方々、この土地の良いところを伝えてくれた方々に出会い、またその人たちのために、何かしたいと強く思いました。

今回の研修で、現地の方の声や状況を見て、感じて、どれほど大きな出来事であったのかということを知りました。特に、女川町を訪れた際、あまりにも綺麗で整然とした街並みを見て、復興の進み具合を認識したと同時に、それほど綺麗な街並みを整えられるほど、一度全てが破壊され尽くしてしまった、ということがかえって脳裏に浮かびました。また、直接被害に遭われた方の親しい方や親族を失ったお話をお聞きし、東日本大震災という大きすぎるほどの出来事をより身近に感じることができました。



(株)アトラス
谷坂 元優
(Tanisaka, Yukihiro)

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）
セガサミーグループ社員ボランティア&応援イベント報告

2018年6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に、河川の氾濫や洪水、土砂災害などの被害において、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。セガサミーグループ各社有志社員による現地でのボランティア活動に加え、子ども向けイベントへの協力も行いました。

平成30年7月豪雨　社員ボランティア

●第1回：9月11日(火)～9月14日(金)　参加人数14名
●第2回：9月19日(水)～9月21日(金)　参加人数12名
●第3回：9月25日(火)～9月28日(金)　参加人数10名



VOICE

サミー(株) 広島支店
営業本部 営業統括部 広島支店 第一営業GR 広島営業所
北川 勝幸 (Kitagawa, Katsuyuki)

被災された岡山県真備町に復興支援活動として参加させていただきました。ほかのボランティアさん達と連携をとりながら3日間お手伝いをさせていただきましたが、真備町全体の復興を思えば相変わらず微力だなと感じながらも、「微力でも無力ではない！」の言葉で頑張ることができました。作業に関しては家財が浸水で濡れていることもあり、普通の畳であっても水分を含み異常な重さになって、搬出に関してはかなり苦労しました。そんな中でもほかのボランティアの方々との連携などもあり、3日間で8割程度の家財搬出と清掃ができました。今後も場所を問わず参加できる機会があれば、微力ながらお手伝いしていきたいと思います。

VOICE

(株)セガトイズ
ハイターゲット企画開発部
下川 智 (Shimokawa, Satoshi)

朝礼で“真備町の皆さんの笑顔を見るためにがんばろう！”と参加した社員同士で結束を固め、イベントに臨みました。私はUFOキャッチャーを担当し、お子さんからおじいちゃん・おばあちゃんまで、とにかくぬいぐるみを持ち帰ってもらえるように、また、楽しく遊んでもらえるように努めました。ぬいぐるみを手に入れた瞬間のおばあちゃんのうれしそうな笑い声が忘れられません。イベントを通して真備町の皆さんと笑顔と笑い声と歓声を共有することができました。このイベントが、さらなる復興の一助になっていればうれしいです。また会社の垣根を越え、セガサミーグループの名のもと力を合わせ活動できたことを誇りに思います。

「まび新春まつり」社員ボランティア応援イベント

2019年2月17日(日)　参加人数11名　来場者814名





宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定を締結

― 七ヶ浜町 × セガサミーグループ「地方共創」プロジェクト始動 ―

セガサミーホールディングスは、2019年6月17日に宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定を締結しました。セガサミーグループの人財を7月1日より七ヶ浜町へ派遣し、地域創生、活性化に関わる各種事業の企画・推進を図っていきます。

セガサミーグループは、東日本大震災発生直後より、被災された方々が一刻も早く日常生活へ戻れるよう、社員ボランティアによる復旧支援活動、また、エンタテインメント企業として、当グループの製品、サービスなどを活用した地域イベントを開催するなど、被災地の方々が笑顔で、前向きに復興に取り組むためのサポート活動などにも取り組んできました。

そして、震災発生時より時間が経過していく中で、新しい方法、新しい枠組みで復興にお役立ちしたいとの思いから七ヶ浜町と協議を重ね、セガサミーグループ初の自治体との地方創生に関わる連携協定を締結に至りました。セガサミーグループでは、今後も感動体験を創造し続けることでさらなる事業の成長を図るとともに、持続可能な社会の形成に寄与すべく、SDGsの推進など、様々な社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。



マネジメント

セガサミーグループの理念体系

グループミッションピラミッド

セガサミーグループは、オリジナリティ溢れるエンタテインメントを通じて感動体験をご提供するという考えのもと、国際社会の一員であることを強く意識し、様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、「良き企業市民」として社会からの倫理的・公共的な期待に応え、社会の持続可能な発展に寄与する価値の提供に取り組んでいます。また、事業活動に留まらず、芸術・スポーツをはじめとするの文化の発展支援など、グループ全体で様々な社会活動を継続的に実施し、社会をもっと元気にカラフルにすることで、「豊かな社会の実現」と「文化の創造」を目指します。

2017年にはグループミッションを策定し、その浸透を図るためグループおよびグループ各社のミッションピラミッドを策定しました。ミッションピラミッドは、ミッション（使命・存在意義）、ビジョン（ありたい姿）、ゴール（中長期目標）からなり、最終的には各事業部門や社員個人の目標までリンクすることで、異なる事業・業務環境のもとでもベクトルを合わせ、一体となって持続的な成長を行う道標となるものです。

グループミッション　　感動体験を創造し続ける　～社会をもっと元気に、カラフルに。～

「創造は生命（いのち）」、「積極進取」という価値観を共有しつつ、常に革新者として世界中のあらゆる人々に感動体験を提供し続けます。
社会をもっと元気に、カラフルにすることで豊かな社会の実現と文化の創造に貢献します。



グループCSR憲章 https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/

グループ行動規範 https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_csr/

グループ・マネジメントポリシー https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy/

グループ・ガイドライン https://www.segasammy.co.jp/japanese/media/file/pr/commu/csr/20141101_supplychain_csr.pdf

「危機管理」「ITセキュリティ」「クラウドサービス利用」「SNS利用」「海外贈収賄禁止」に関する各ガイドラインを定めています。なお、CSR調達に関してはガイドブックとして開示しています。

セガサミーグループのCSR

セガサミーグループは、CSR活動を当社グループの持続的価値創造と社会の持続的発展の双方を実現するための重要な活動と捉えています。

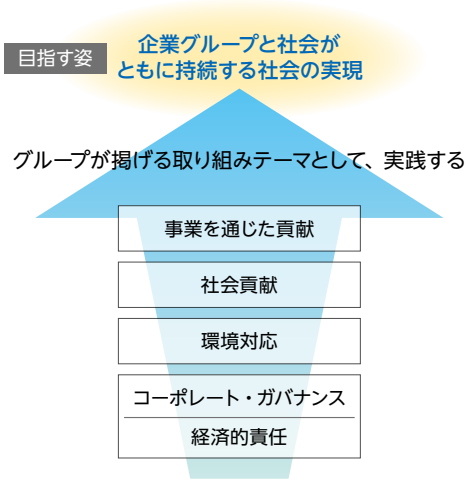
「CSR・SDGsに関する方針」を定め、CSR活動にSDGsを関連付け、重点取り組みテーマを定めています。また定期的にステークホルダーの意見や要望を確認し、重要課題の確認を行い、グループの活動を内外に発信します。

グループCSR・SDGsに関する方針
https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy/

グループCSR・SDGs推進方針について

2019年2月にCSR・SDGs推進に関する方針を改定・改称し、SDGs重点取り組みテーマを定めました。

- 超少子高齢化社会への対応（SDGsゴール3、4、8）
- 働きがい・多様性の向上と不平等の排除（SDGsゴール1、5、8、10）
- 依存症問題への対応（SDGsゴール12）



セガサミーグループは、グループの成長のみならず、日本経済全体の活性化や世界の持続可能な成長に貢献するとともに、人類社会を持続させるための責務を含めた自らの責任を自覚し、グループらしいCSR・SDGs推進活動を実践していきます。

なお、CSR活動全体のテーマとしてち次の5つを設定しています。

① 事業を通じた貢献」（エンタテインメントによる感動体験の創造およびSDGs取り組みを通じた社会課題解決/製品サービスの提供における安心・安全・満足の追求）
②「社会貢献」（良き「企業市民」としての地域社会との積極的な対話と幅広い社会貢献）
③「環境対応」（リサイクル・リユースによる廃棄物削減等による環境負荷の軽減）
④「コーポレート・ガバナンス」（コンプライアンスやリスク管理の徹底による企業経営の健全性確保、透明性向上、効率性向上）
⑤「経済的責任」（グローバルな事業展開を通じて継続的な成長・企業価値の最大化を目指し適正な利益還元、納税を実施）

セガサミーホールディングスの取締役会で承認されたこれらのテーマについて、事業会社ごとに進捗管理を行っています。（主な取り組み内容についてはP.18をご参照ください。）

CSR・SDGs推進方針
https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/tpm.html

CSR・SDGs推進体制

セガサミーホールディングスに設置されているグループCSR推進室を2019年4月にCSR・SDGs推進室へ改称し、グループのCSR・SDGs活動を統括・管理・支援しています。さらに、SDGsに対する取り組みを強化するにあたり、CSR・SDGs推進室にグループ内のプロジェクトへのマーケティングを支援する機能の拡大を図っています。

2019年5月には、国内グループ会社全役員に対しSDGs研修を実施し、主要事業会社11社でSDGs重点取り組みテーマをベースにした社会課題解決を目指した取り組みを始めています。活動状況については、定期的にホールディングス取締役会に報告を行います。グループでの活動推進のため、ホールディングスのCSR・SDGs推進室長を議長としグループ会社のCSR責任者が参加する

「グループCSR事務局会議」を設けています。CSR活動に関する施策の計画・実行・評価・改善（PDCAサイクル）などを行うため、原則として年に1回開催しています。

なお、CSR・SDGs活動の状況については、CSR BOOKLETをWEB開示しグループ内に活動状況を共有するとともに、本レポートを社員向けに編集した「CSR COMMUNICATION REPORT」に付属しているアンケート（2018年度 1,020件）の回答状況（経営理念、行動規範の浸透確認含む）をセガサミーホールディングス取締役会にて報告しています。

ステークホルダーとのかかわり

セガサミーグループの事業活動は、5つのステークホルダー（「お客さま」、「お取引先」、「株主・投資家」、「社員」、「社会（社会貢献と環境）」）とのかかわりの中で成り立っています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、信頼関係を深めながら、ご意見やニーズを事業活動に反映することに努めています。

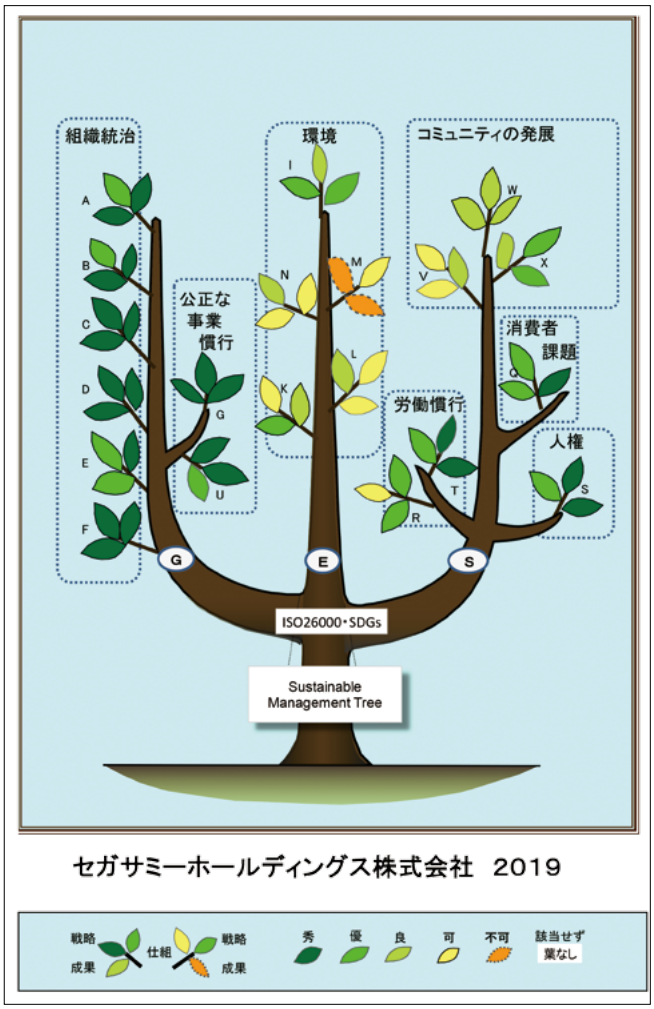
環境経営学会による経営評価および専門家によるステークホルダーダイアログ、マテリアリティの設定

2016年より、認定特定非営利活動法人環境経営学会 経営診断推進委員会によるサステイナブル経営診断を受けています。診断の結果、評価の平均評点獲得率は77.6%と、2年連続で改善しました。なお、2019年4月には、経営、人権、環境などの各分野の専門家である評価委員の方々とCSR・SDGs推進室長がCSRの取り組みについてのステークホルダーダイアログを開催し、その意見・要望を評価結果とともにホールディングス取締役会に報告しています。ぱちんこ・パチスロ・ゲーム機のリユース・リサイクルの取り組みに関し高く評価をいただいたものの、一層の環境対応の取り組み要望を受けました。当グループとしては、これを受け、前出の3つのSDGs重点取り組みに環境対応を加えた4項目をCSR活動のマテリアリティ（重要課題）と設定しました。

また、環境対応推進として、①環境活動に関するSSHD取締役会報告体制の整備、②CO_2排出量算定スコープ3対応、③TCFD対応を行うこととしました。



ステークホルダーダイアログの様子



結果ツリー図

国連「グローバル・コンパクト」への参画

セガサミーグループは、2014年4月、「国連グローバル・コンパクト」（以下、UNGC）への支持を表明し、署名しました。UNGCとは「各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み」です。私たちはUNGCが掲げる10原則に基づき責任ある経営を推進することによって、持続可能な社会づくりに貢献していきます。また、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下、GCNJ）内に組織されている、サプライチェーン、WEPs、SDGs研究分科会などの活動に参加し、他社との情報共有を行うほか、GCNJの活動に貢献し、社会の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。

国連「グローバル・コンパクト」項目と10原則		当社グループ「CSR BOOKLET」	関連ページ
人権	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な購買のために 社員とともに：人権の尊重	P.11-15 P.31-32 P.36
労働	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な購買のために、お取引先とのパートナーシップ 社員とともに：人財の育成と評価、多様性の推進、人権の尊重、働きやすい職場環境の整備	P.11-15 P.31-32 P.36-38
環境	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR 社会とともに【環境】：シーガイアビーチクリーンinニッ葉、グリーン電力証書システムの導入、製品の環境配慮設計、11年目を迎えた森林の里親活動～「セガの森」～、みんなで創ろうニッ葉の森林	P.11-15 P.42-45
腐敗防止	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR マネジメント：コンプライアンス お取引先とともに：公平・公正な購買のために	P.11-15 P.15-17 P.31-32

CSR推進活動

意識の醸成

セガサミーグループでは、社員一人ひとりがCSR憲章を理解し、その精神に基づいたグループ行動規範に沿って行動してこそ、当社グループが掲げる「グループミッション」を実現できると考えています。セガサミーホールディングスのCSR・SDGs推進室では、グループすべての社員を対象にCSR活動の重要性や取り組む意義を伝えながら、それぞれの理解度に合わせた各種研修をはじめとした浸透策を企画し、実行しています。

また、「CSR COMMUNICATION REPORT」を全社員に配布し、CSR意識の浸透とグループ一体感の醸成を行うとともに、ポスターを掲示して社内の意識向上に努めています。



全社員に配布している
CSR COMMUNICATION
REPORT

CSR研修

2013年10月から、グループ企業のマネジメント層並びに一般層向けにCSR研修を実施しています。2018年度はグループ企業7社、898名が受講し、2013年度からの総受講者数は3,329名となりました。外部講師による講義やグループワークを通じて、社会や事業環境の変化を考え、「社会と企業の共生」や「企業の持続的成長・発展」についての理解と参加者同士のコミュニケーションを深めました。

修了時には、受講者全員が「CSR推進宣言」を提出し、セガサミーグループの一員としての存在意義を再確認する機会を設けています。今後も「社会から期待され、信頼され、尊敬される企業、そして社員が誇れるグループ企業に」を社員一人ひとりが意識して行動できるように、研修を継続していきます。

※ 詳細はP.38参照


CSR研修のグループワーク

セガサミーホールディングス会長とグループ社員の意見交換会

各現場の活動成果や課題などを共有し、今後のCSR活動の方向性について議論することを目的に、セガサミーホールディングス会長とグループ社員の意見交換会を年に1回実施しています。グループ各社のCSR推進担当者や、各社が注力するプロジェクトや人事の責任者などが参加し、活発な意見交換が行われます。経営トップと、日常業務では接する機会が無い部門や社員同士が一つのテーブルを囲むことで、グループ間コミュニケーションの活性化に大いに役立っています。2019年度は4社、7名が参加しました。



経営トップとグループ社員が事業やCSRについて語り合う意見交換会

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについては、当社グループ統合報告書をご参照ください。

統合報告、コーポレート・ガバナンス
https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/corp/governance/

コンプライアンス

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ行動規範」および「グループ・マネジメントポリシー」に基づき、一人ひとりがコンプライアンスを意識した適切な行動を取るために、様々な取り組みを行っています。

コンプライアンス推進体制

推進体制の概要と強化

セガサミーホールディングスのコンプライアンス推進室長が議長を務め、年2回開催される「グループコンプライアンス・リスク連絡会議」(セガサミーホールディングス社長、常務取締役、管理系本部担当執行役員、主要グループ会社のコンプライアンス推進部門管掌役員・部長、監査役が出席)のもと、法令・社会規範を遵守した健全な企業経営を展開するための社内体制構築を図っています。

また、2019年4月にグループコンプライアンス推進室を設置し、国内グループ24社の社員を対象としたeラーニングなどのコンプライアンス教育を一体的に実施していきます。

内部監査

経営監査部では、グループ各社に対しコンプライアンス遵守のために各種テーマ監査に加え、グループ企業の遊戯、宿泊並びにゴルフ場などの各施設、提供する食品の安全性などに関して定期的に内部監査を行っています。重要発見事項については年2回セガサミーホールディングス取締役会に報告を実施しています。また、通常行われる内部監査に加え、お客さまの安全を第一に、改善項目に関して継続してモニタリングし、改善状況を確認しています。

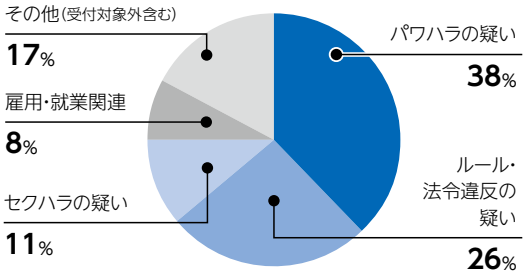
■ 主な改善事例

取り組み	進捗・実績
全国のアミューズメント施設110店舗にて、お客さまにけがや事故などが発生しないように安全点検を実施しております。	2019年度は点検の結果、216件に改善の指摘や是正を依頼しました。 ①施設設備及び備品に係る事項　109件 ②遊戯機器等に係る事項　99件 ③食の安全に係る事項　8件
過去の監査にて、宿泊施設、ゴルフ場、レストラン等に於ける施設安全、食品衛生、防火などの確認を実施した結果、180ヶ所の違反や不備を指摘しました。	• 指摘を行った180件のうち、2018年までに147件の改善が確認されています。残りの33件についても対応策を検討中です。 • 指摘事項の確認中にも新たに13件の不備を確認し、改善を依頼しています。
法令上の不備や安全性だけではなく、外観や清潔感などのホスピタリティの向上に関する視点での確認も行っています。	高級感やリゾート感を損なわないための補修や不要物撤去・清掃が必要な事例を11件を確認し、改善を依頼しています。

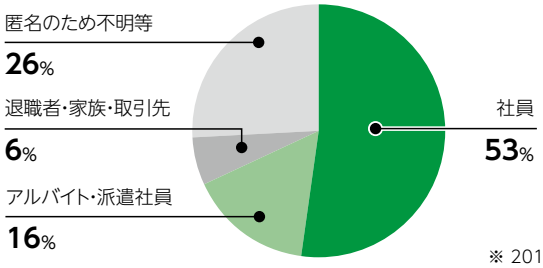
内部通報制度

グループ内での自浄機能を作用させ、法令違反や不正行為などを未然に防ぐため、「セガサミーグループ企業倫理ホットライン（内部通報制度）」を設置しています。2019年4月、グループ各社の窓口を一元化し、独立性を有する第三者の危機管理専門会社に受付窓口業務を委託しました。退職者を含む従業員とご家族、お取引先からのご相談に対応しており、全従業員へのカードの配布、社内イントラネットへの掲載などで周知しています。2016～2018年度の実績（国内）は、16件、19件、24件でした。なお、2014年度～2018年度の通報内容の内訳と通報者の属性は以下のとおりです。

通報内容の内訳※



通報者の属性※



※ 2014～2018年度

コンプライアンス推進活動

ルールの徹底と意識強化

コンプライアンス意識の醸成と浸透を図るため、グループ各社向け階層別啓発活動を実施しています。外部講師を招いた社内セミナーや、定期的かつ継続的に発信するメールマガジン、遭遇しそうな具体例を編集した「コンプライアンスハンドブック」、漫画を使って分かりやすくした関連記事などをイントラネットに掲載するなど、グループ全従業員を対象に啓発活動に取り組んでいます。

グループ役員層におけるコンプライアンス研修実績（2018年度）

種類	対象	会社名	回数	人数（のべ）
役員 コンプライアンス 研修	グループ全社の 会社役員、監査役、 執行役員	SSHD、SHD、SAMMY、 SNW、TMSほか	3回	151名

※ 略称は、P.02参照

2019年度には、グループ全体のコンプライアンス体制を強化するため、グループコンプライアンスを設置。グループ24社を対象とした統一的コンプライアンス研修としてeラーニングを導入しました。またコンプライアンス意識調査（回答率94%）を実施し、今後のリアル研修実施および重点的な研修実施に役立ていきます。

反社会的勢力の排除

セガサミーグループは、反社会的勢力による経営への関与の防止のために、グループ行動規範に反社会的勢力との一切の関係を排除する旨を明記するとともに、お取引先との契約書へのいわゆる暴排条項の組み込み、お取引先が反社会的勢力に該当するか否かのチェックシステムをグループとして導入しています。反社会的勢力からの接触を受けた際は、適宜に警察・弁護士などを含め外部機関と連携して組織的に対処します。

腐敗防止

「グループ行動規範」において、(1) 贈賄をはじめ利益供与、便宜供与とみられるあらゆる腐敗を防止すべきこと (2) 寄付を含む社会貢献活動を行う際は、関係法令に基づき定めた社内ルールを遵守して、公明正大に行うべきことを明記し、2014年7月に「海外贈収賄禁止に関する方針」を策定し、リスク分析の上、関連部門への研修、定期的な確認メールの配信などを実施しています。

リスク・マネジメント

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」に基づき、事業の推進および企業価値の維持・向上を妨げる重大なリスクに対し、平時より対策を検討し、損失を最小化する体制を構築することで、様々なステークホルダーへの影響を極力小さくするよう最大限の努力を行い、社会から強い信頼を得る企業を目指しています。

リスク・マネジメントの状況

危機管理

セガサミーグループでは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」のもと、「危機管理ガイドライン」を制定し、年1回主要17社のリスク分析を行い、SSHDの取締役会で共有するとともに、潜在するリスクの低減および危機の未然防止に努め、重大な危機が発生した場合の即応体制を整備・維持しています。また、「首都直下地震における帰宅困難者対策のセガサミーグループ基本方針」を策定し、「備蓄品手配」、「建物設備の安全構築」、「安否確認の実施」、「帰宅ルール」についてグループ会社ごとに対応策を定め、イントラネットなどで全社員への周知を図っています。

知的財産の管理

セガサミーグループでは、知的財産は企業競争力を高める重要な要素かつ企業経営を支える経営資源と位置づけ、グループ会社ごとに方針を掲げて取り組んでいます。

エンタテインメントコンテンツ事業では、各部門に知的財産推進委員を置き、プロジェクトの現場責任者、担当者、新入社員に向けた研修・説明会などを通じて、継続的に知財意識啓発を行っています。また社内イントラネットを通じて知財情報の共有を推進することで、第三者の知的財産権侵害を未然に防ぐとともに自社の知的財産権の適切な管理を実施しています。

さらに知的財産権部が各部門と連携して事業戦略に即した知財戦略を策定・実行することにより、グループ全体で知的財産権を積極的かつ戦略的に取得活用していく取り組みが進められています。また、ブランドの維持・向上のために模倣品対策なども実施しています。　遊技機事業では、研究開発の段階ごとに技術調査などを実施し、徹底したリスクアセスメントを行っています。また管理職、新入社員、開発者などの階層に応じた知財研修制度や、社内イントラネットによる定期的な知財情報の発信など、多様な啓蒙環境を設けて知財意識の向上を図っています。

さらに技術分野ごとに戦略的な知財ポートフォリオを構築し、効果的な知財活用を推進しています。

情報セキュリティ

セガサミーグループでは、お客さまの情報をはじめ、経営情報や営業情報などすべての情報を重要な財産と捉え、「グループ情報管理に関する方針」、「グループITセキュリティに関する方針」、「グループ個人情報保護に関する方針」、「情報管理規程」などを定めています。また、グループ各社の担当者による情報共有の場を設け、グループ全体での取り組みを一層強化するための施策を話し合うなど、情報管理体制の強化に向けた取り組みを進めていきます。

個人情報については、「グループ個人情報保護に関する方針」に基づき各社で「プライバシーポリシー」を定め、お客さまの個人情報の適切な管理や運用に始まり、不正アクセスや紛失、改ざんおよび漏洩などを防止する対策を講じています。なお、セガグループのサービスが一つのIDで簡単・便利に楽しめる「SEGA ID」に関する個人情報はセガホールディングスの管理下にあり、同社はプライバシーマーク（Pマーク）を取得しています。

テーマ別課題と2018年度進捗状況および2019年度の取り組みおよびSDGsとの関連性について

グループが掲げる4つの取り組みテーマに対し、課題を設定し、活動の進捗・実績の管理を行っています。2018年度は、Road to 2020に邁進するとともに、グループシナジーの一層の拡大と効率化を目指し、2018年8月のオフィス統合および働き方改革の推進を行いました。社員の多様な働き方が可能となり、環境面も考慮した効率的なオフィス環境を整えることで、グループの中長期的成長やステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。

また、2019年度より、SDGsへの取り組みをグループ全体で強化し、グループ主要各社で計画を策定しPDCAサイクル作りを進めていきます。

■ セガサミーグループ「4つの取り組みテーマ」の主な課題と活動実績

※略称は、P.02参照

取り組みテーマ	課題	取り組み	2018年度の進捗・実績	主な掲載ページ	関連するSDGs
事業を通じた貢献	事業を活かした社会課題の解決	グループコンテンツを活かしたイベント・製品の提供	• グループ役員向けSDGs研修および11事業会社でSDGs推進計画策定【グループ】 • 共遊玩具の開発・製造・販売【TOYS】 • ドライブシミュレーター【SLS】 • 豊かなシニアライフのための趣味・交流機会づくり(シュミカツ！)【SGC】 • 障がい者・健常者がともに楽しめるe-sports【SGC】 • プログラミング授業の体験【SE、TOYS】 • NPOとの協働で玩具を寄贈【SSHD、TOYS】 • ゲーム出前教室【SIC】	P.20	3 4 8
	社会に与えるマイナス影響の軽減	依存症対策	• 京都大学との共同研究	P.26	12
		業界団体標準等に準拠した安全基準の遵守	• 業界団体の基準等に準拠した安全基準【E、遊、TOYS】 • 業界団体を通じた適度な遊技環境の推進【遊、SE】		
		不正防止対策	• 不正防止【遊】		
	安心・安全で楽しい製品・サービスの提供	製品やサービスの安心・安全の提供、並びに適正な情報開示	• 対象各国の法令、業界基準等に則し、それを上回る自主基準の設置、製品表示などによる情報開示を含む品質保証【E、遊、TOYS】 • 青少年保護対策【SE】 • 正確で適切な製品表示【E、遊、TOYS】	P.25-26	12
		サポート体制のさらなる充実	• お客さまサポート体制の充実【E、遊、TOYS】		
社会貢献	災害復旧・復興支援活動やグループ全体の活動を通じた社会貢献	東日本大震災復興	• グループ新入社員研修の一環として被災地へ派遣(12社、202名)【グループ】 • コンテンツを活かした被災地復興支援イベントを開催(6回)【グループ】 • 宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定【SSHD】	P.7-10	11
		その他グループ全体での社会貢献および文化等への発展支援	• セガサミー文化芸術財団設立、「TOKYO JAZZ」など芸術活動への協賛【SSHD】 • 「絵本を届ける運動」(321冊)(発展途上国のエンタテインメント環境整備)【グループ】 • 玩具寄贈など【SSHD、TOYS】	P.47-50	1 2 3 4 10
	地域社会への貢献	地域のスポーツイベント参画や支援など	• 「ジュニアスポーツフェスティバル」並びに野球教室の開催【SSHD】 • マラソン大会協賛【遊】、街並み清掃活動【SHD】 • 子ども食堂への支援【SSHD、PSR】		
環境対応	事業活動から発生する環境負荷の軽減	環境配慮型製品開発・販売の推進	• 低消費電力製品の開発・提供点数の増加【E】 • エコぱちんこの開発、製品化への展開【遊】	P.32 P.42-45	3 9 12 13
		3R(特にリサイクル)の推進	• 下取機リサイクル95.00%達成【遊】 • 廃棄物有価リサイクル(川越工場勤務者による分別活動)の実施【遊】 • AM(アミューズメント)機器の手分解による100%リサイクルを実施【SLS】		
		環境保全活動の推進	• 年次サプライヤーミーティングでの環境規制等の情報を配信【E】		
	地球環境資源への配慮	環境施策の推進	• グリーン電力証書の購入(100万kWh実績/年)【SHD】 • 横浜市風力発電事業「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」への協賛(グリーン電力証書2018年実績：212,848kWh)【SHD】 • 主要グループ会社15社の環境負荷数値把握体制の整備【SSHD】 • 森林里親契約「セガの森」整備によるCO_2吸収量が長野県から評価【SHD】 • シーガイア敷地内の黒松(250㎡)の管理・保護・育成【PSR】	P.42-45	7 11 13 14 15
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンスの強化	コーポレート・ガバナンス強化(働きがい・多様性の向上と不平等の排除含む)	• ガバナンスコード対応、独立諮問委員会・経営戦略委員会運営、SSHD役員研修等【SSHD】 • グループミッション、行動規範の浸透状況を取締役会に報告【SSHD】 • 働き方改革推進【グループ】 • LGBT支援制度導入、東京レインボープライドに協賛【グループ】 • セガサミーカレッジ開校【グループ】	P.47、統合報告書参照	5 8 10 15
		コンプライアンス強化	• グループ役員コンプライアンス研修(3回、151名)【グループ】 • 企業倫理ホットラインの設置による使いやすい通報制度の構築【グループ】 • 2019年度グループ24社を対象とした統一的コンプライアンス研修(eラーニング導入済み)	P.16	16
	CSR意識浸透・CSR経営の推進	経営者からの継続的なメッセージ発信によるグループミッションの浸透	• グループ社員向けCSR研修の実施(25回、7社、898名)【SSHD】 • グループミッションをグループイントラネットに掲示、社員手帳冊子にも掲載し社員啓発を促進【グループ】 • CSRコミュニケーションレポートを発行しグループ正社員、アルバイト等10,107冊を配布【グループ】 • 経営トップから、社会情勢や事業発表とともに、現実に即した形で社員に分かりやすく経営理念の意味と実践についてメッセージを配信(年3回)【グループ】 • 「国連グローバル・コンパクト」への参画【SSHD】	P.12-14	—
		CSR情報の把握と共有	• グループ会社CSR担当者向け情報媒体(新聞、雑誌等)を通したCSR情報の収集とグループ各社への提供(随時)【SSHD】		